

令和6年度 第3回 紀南高等学校運営協議会 議事概要

日 時	令和6年9月26日（木）19：00～21：00
場 所	紀南高等学校会議室
出席者 （敬称略）	辻本、西、山本、長阪、廣畑、田尾、産屋敷、二村、立嶋、藤田、湊、岡本 （県教育委員会）一尾、加藤英、中野 （紀南高校）辻、湊、込谷、池山
欠席者 （敬称略）	岩本
議 事 主な意見	1 報告事項 （1）「第2回紀南高等学校学校運営協議会」議事概要について （2）学校の現状について ・ 3年次生の進路状況に関して、家に籠ってしまい社会的に孤立してしまうことが心配されるが、どのような状況か。教育の役割は、教育し社会へ輩出していくこと。 ⇒ 今のところ、社会と関りがなく引きこもってしまうというのではないが、支援が必要な生徒が就職するにあたり、保護者の理解が得られず、保護者の希望に基づいての指導になるという状況がある。そのような家庭は地域から孤立しがちで、保護者が独断で判断しているように思われるため、そこに地域の関わりがあることが望まれる。 ・ 引きこもりは一般によくあること。通級は特別なことではない、必要なことである、というスタンスに立つべきで、考え方を変えていく必要がある。 ⇒ 大学における発達障がいのある学生への対応は課題になっている。合理的配慮はするが、あくまでも本人からの申請が必要。そのため、自分の特性を知り、自ら申し出ることができる力をつけられるよう取り組んでいるが、支援につながらないところもある。 ・ 専門機関に早めにつなげることが大切。 ⇒ 早い対応が必要であると考え、昨年度から、2年次の夏頃からの職場体験を実施している。本人や保護者の気づきになればと考えている。 ・ 就労体験時に専門家にアセスメントを取ってもらおうと、教員が無理をせず、第三者からの評価が得られるため、よいのではないか。 （3）その他 ⇒ なし

2 協議事項

(1) 熊野青藍高等学校紀南校舎の今後のあり方について

「地域産業とみかん」の現状と今後の展開について

- ・ キャリア教育の視点で、生徒が自らのキャリアをデザインする力を身に付けることが重要。そのために、全体を見渡して将来どのような仕事があり、その中で自分はどのような仕事をするかを考える。地域の産業の現状を歴史も含め知り、将来のイメージを持てるようにすることが大切。カリキュラムの作成にあたって、三重大学教育学部と連携するのはどうか。

⇒ 将来の予測ができない現在において、探究的な学習が求められている。生徒にとって身近なみかんを入り口として、この地域の産業の将来について生徒に考えさせ、違うテーマでの探究へと展開していきたい。今後、いただいた意見を取り入れながらカリキュラムを作成していく。

- ・ 全員が探究をする必要がある。一部の科目だけでなく、すべての教科において、生徒が熱中し、興味を持って、引きつけられる授業を。

⇒ 先生方へ探究を入れた授業を考え、実施するように依頼しており、現在、数学や理科で取り組みが始まっている。

- ・ 7月調査での入学希望者が定員の40人を満たしていない。活性化するためには中学生へのアピールが必要。地域の資源、条件、環境や、連携できるものはすべて使って魅力を伝え、中学校との連携をしっかりと取り、情報提供を早急に実施していくべきである。探究的な学習により力をつけていけば、将来さまざまな面で発揮できる。使える資源を活用し、紀南高校の魅力を早く中学生に向けて発信してほしい。

⇒ 地域と連携しながら魅力を伝えていかなければならない。本校生徒の可能性を引き出せるように、各所と連携して取り組んでいきたい。部活動についても、地域と協力しあって取り組んでいきたい。

- ・ 情報提供を早くするべき。また、要望に対しては回答、説明を早く実施するべき。

- ・ 部活動については、早くから相談し決まってきた。同様にすべてが進んでいくといい。

- ・ 1クラスの定員を満たさないことがあってはならない。40人の定数を確保する見込みはどうか。

⇒ さまざまな要素があるため、他校の動向も見ながら取り組んでいく。

- ・ 7月の調査結果では、県立新宮への流れは比較的少ない。木本、紀南の両校が頑張らないといけない。いかに中学生にアピールするかが重要。

- ・ エビデンスに基づいた説明が重要。

閉校式・開校式、PTA・同窓会等について

- ・ 閉校式はぜひ実施してもらいたい。また、熊野青藍紀南校舎の学校運営協議会のあり方についても検討してもらいたい。御浜や紀宝に加えて、熊野、下北山、北山からも参加し、意見を反映した運営協議会を。

⇒ 今後、木本と連携を図りながら検討を進めていく。

(2) 紀南高祭について

- ・ 例年どおり実施。資金は同窓会から支出し、売り上げは生徒会へ納入。人員確保が必要。
- ・ 同窓会の作品展示を実施。

(3) その他

- ・ 令和7年度、8年度の校長はどうなるのか。紀南高校の生徒がいる間は、校長を確保してほしい。

⇒ 過去の校舎制の事例としては、校長は一人。

- ・ 本会議から要望があったことを県へ伝えるべきである。

3 連絡事項

(1) 紀南地域県立学校拡大人権教育推進協議会について

- ・ 自己肯定感の向上に、人権教育は大きな役割を果たすのではないかな。

⇒ 3分野について人権学習を行い、継続して取り組みながら、子どもの権利、意見表明の機会を確保していく。

(2) 学校運営協議会は今後

第4回：令和6年11月28日（木）、第5回：令和7年3月5日（水）
に実施予定

(3) 配付資料 熊野青藍高等学校 学校案内、紀南の風51号、新聞記事

(4) その他 ⇒ なし